

第45回出版研究集会

2018年9月28日(金)～10月24日(水)

出版産業再編 見えてきた新生の萌芽

出版産業が抱えるさまざまな課題にとりくんだ到達を共有して課題を解き明かし、明日からの仕事に活かす出版研究集会も第45回を迎えます。全体会と分科会を通じて、産業の根幹にかかわる問題について考え、紙であれ電子であれ、私たちの産業にとって今もっとも求められるものとは何かを議論します。即効性の特効薬はありませんが、良薬は意外と身近なところにあるかも。全体会、分科会を通じて、さまざまなゲストと出版産業を新生していくヒントを探ります。

長らくの低空飛行を経て、出版界は再編の前夜にあります。書店と流通と版元の役割は再定義され、出版に働く私たちの職能もまた大きく変わろうとしています。産業「崩壊」(2016年)から脱「崩壊」(2017年)の道すじを模索してきた出版研究集会。今年は出版界の、とりわけ新しい動きに着目します。

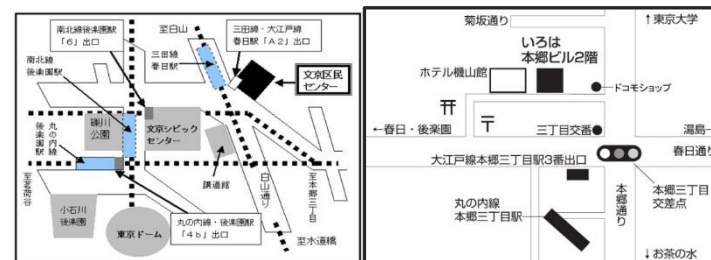
全体会 日時：2018年9月28日(金) 18:30～20:30 / 会場：文京区民センター2A会議室

「5大取次以降の本と流通を考える—出版・取次・本屋三位一体の現場から—」

講師：松井祐輔さん(H.A.Bookstore) 聞き手：大井達夫(出版・産業対策部/忍書房)ほか

ひとり書店は数あれど、昨今はひとり出版社隆盛の時代、また、書店流通には次第にひとり取次も台頭してきました。そんな中、版元・取次・書店の三位一体をひとりで切り盛りする「出版ひとり」ともいべき業態で新しい風を送る、H.A.Bookstoreの松井さんをお迎えします。出版界に寄せるさざなみを次第に大きなうねりへと育ててきた、思いと展望、そして苦勞と楽しさについて伺いたいと思います。時代は単独者が切り拓く、単独者なら切り拓ける時代、なのか。

▶▶地図《左》全体会、分科会③、⑤会場地図 / 《右》分科会①、②、④会場地図



分科会 時間：18:30～20:30

① 10/5 (金) 『書店を歩く』ことから視えてきたもの』(会場・出版労連会議室)

講師・長岡義幸さん(インディペンデント記者) 聞き手・伊豆野 潔(出版・産業対策部)

雑誌をはじめ出版物売り上げの減少はとどまることを知らない。それにつれ、街の風景が変わるほどに減っている書店。さらに、出版流通の世界は、配送網維持の困難から取次による出版社への取引条件の見直し、アマゾンによる取次外しなど激変を続けている。全国の書店を歩くことから視えてきたものは何かを長岡氏に語ってもらい、書店と出版流通の現状を考えていく。

② 10/12 (金) 「教科としての道徳がはじまった一子どもたちは……」(会場・出版労連会議室)

講師・宮澤弘道さん(公立小学校教員)

2018年4月から小学校では「特別の教科 道徳」がはじまった。算数など他の教科には、その背景に科学的な学問成果の蓄積があるが、道徳にはそれがない。検定教科書の作成やそれを使用する授業、さらには評価の問題など、危惧される点が多い。一方、この4月から授業はスタートしている。先生や子どもの戸惑いや苦労・工夫など、具体的な報告を受け、教科としての道徳のあり方、あわせて教科書のあり方を考えたい。

③ 10/18 (木) 「過渡期を迎えた＜表現の自由＞の行方」(会場・文京区民センター3C 会議室)

講師・メイザーズぬまきちさん(ゲーム制作者) 聞き手・屋間たかし(ルポライター)

「自分が気に入らない表現は叩きつぶしてもよい」公権力や法律を駆使して。あるいは SNS で攻撃的な罵倒を駆使して。エロ・ヘイトスピーチ・Metoo etc... あらぬところから向けられる刃は、間違いなく表現することの意志を再確認されている。自身も表現活動が続ける講師からの提起をもとに「表現の自由」が「表現することの自由」に押し込められた現代の止揚を試みる。資料等は事前に SNS などでも提示するので要確認のこと。

④ 10/19 (金) 「再販制についてあらためて検証する」(会場・出版労連会議室)

講師・清田義昭さん(出版ニュース社代表)

日本の出版産業は、再販制(再販売価格維持制度)によって仕組みの根幹が支えられているが、これが弊害となっているという見方もある。激変・再編期にある出版産業において、あらためて再販制の意義・機能を検証する。

⑤ 10/24 (水) 「国立国会図書館の資料デジタル化事業」(会場・文京シビックセンター5階会議室C)

講師・福林靖博さん(国立国会図書館電子情報部電子情報企画課)

国立国会図書館では、関係する機関や団体との協議の下、利用と保存の両立の観点から所蔵資料のデジタル化が進められている。

2013(平成25)年からは、全国の図書館等でデジタル化資料を利用できる送信サービスも開始された。

国立国会図書館のデジタル化事業を切り口として、デジタル化時代の文化の公共性について考えていく。

*タイトルは変わる場合があります。

【参加費】1,000円(全体会+全分科会の通し券;全体会を除く1分科会のみ参加の場合は500円)

【主催】出版労連・第45回出版研究集会実行委員会 113-0033 東京都文京区本郷4-37-18 いろは本郷ビル2階 TEL03-3816-2911